

第六十七回
帝國議會
貴族院

臨時利得稅法案特別委員會議事速記録第一號

昭和十年三月十六日(土曜日)午前十時九分開會

○委員長(子爵渡邊千冬君) 只今ヨリ會議ヲ開キマス、澁澤君

○澁澤金藏君 私人新設規定デアリマスル

第四條ノ第三項ニ付テ、簡單ニ御質問ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス、此案ハ衆議院ヨリ廻付ニナリマシタ此法案ノ中ニアリマス通り、本法施行後資本金額ニ増加アリタル場合ニ於テ其ノ資本増加ガ臨時利得稅連脱ノ目的ニ出デタルモノト認メラルルトキハ前項第三號ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ増加シタル資本金額ニ付前項第二號ノ規定ヲ準用シ其ノ平均利益ヲ計算ス」ト斯ウ云フ案デアリマスガ、過日馬場サンノ御要求ニ依リマシテ、此修正案ニ付テ政府委員ノ御説明竝ニ御意見ヲ承ツタノデアリマスルガ、資本金増加ガ本法施行後アツタ場合ニ、其資本増加ガ連脱ノ目的ニ出デタルモノデアアルカドウカラ、執行官廳ノ認定ニ任セムトスル法ノ意味デアリマセウガ、其認定ハナカクムツカシイコトデアラウト思フノデアリマス、法人ガ資本増加ヲ爲ス場合ニ、其拂込金額ノ大部分ヲ事業

ノ擴張資金ニ充當スル場合ハ問題ハ起ラナイト思フノデアリマスガ、會社ノ資本金ノ増加、從テ拂込株金ノ増加ニナリマスガ、其株金ノ拂込ノ時期ノ選定ハ、會社ト致シマシテナカク、大切ナモノデアリマシテ、株主ノ懐ロ都合ヲ察シテ適當ナ時ニ之ヲ行フコトヲ要スルモノデアリマス、會社ガ事業擴張計畫ヲ立テマシテモ、直グニ増加資本ノ大部分ヲ之ニ注ギ込ムト云フコトヲシナイデ、半年デアルトカ、一年デアルトカ、又事業ノ性質ニ依リマシテハ一年半ト云フヤウニ、段々ニ資金ヲ注ギ込ンデ行キマシテ、其間ニ増加資本ヲ預金ノ形デ持ツテ居ルト云フコトモアリ得ルノデアリマス、斯ウ云フ場合ニ増加資本ノ大部分ガ預金ノ形ニナツテ居ルト云フ理由デ、是ハ脱稅ノ目的ナル、税金連脱ノ目的デアルト御認定ニナッタラドウデアリマセウカ、斯ウ云フヤウナコトガ起リマスノデ、以上ハ唯一例ニ過ギマセスガ、種々ノ場合ガ生ジマシテ、的確ナル認定ハナカク、困難ナコトデアラウト思フノデアリマス、ソコデ此利得金額ニ對シマシテ、納稅義務者ガ不服ヲ申立テテ政府ニ審査ノ要求ヲ致シマス、此結果ガ又納

稅義務者ガ不滿デアレバ、訴願ヲイタシマスルトカ、行政訴訟ヲ提起イタシマスルトカ、官民ノ間ニ争ヲ起シ易イノデアリマス、ソコデ資本増加ニ對シマシテハ、寧ロ脱稅ノ目的ニ出デタルヤ否ヤト云フコトヲ認定スルト云フヤウナ面倒ナコトヲ避ケマシテ、昭和七年一月一日以後、第一回ノ事業年度ガ終了スル新設會社ニ對スル規定、即チ本法案ノ第四條、第二項第二號ノ規定デアリマスガ、此規定ニ準ジテ連脱ノ目的ニ出デタルヤ否ヤ問ハズ、總テ修正案ノ規定ヲ適用スルコトニスルノモ一策デアアルマイカト思フノデアリマス、政府ノ御意見ハドウデアリマセウカ、御伺シタイト思ヒマス

○政府委員(石渡莊太郎君) 此資本増加ニ對シマシテ、其控除率ト云フモノニ付テ、或一定限度ヲ置クカドウカト云フコトニ付キマシテハ、私ト致シマシテモ、本法ヲ立案イタシマスル時分ニ可ナリ考慮イタシマシタ問題デゴザイマス、之ヲ各國ノ立法例ニ付テ色ミ參照シテ見タノデゴザイマスガ、サウ云フ規定ノアルノモゴザイマス、又無イモノモゴザイマスルガ、只今澁澤サンガ後トド御述ニナリマシタヤウナ、資本

ヲ増加シタモノニ付テハ總テ之ヲ七分ト見ルト云フヤウナ、斯ウ云フ規定ヲ有ッテ居ル國ガゴザイマス、又サウ云フヤウナコトヲ致シテ居ラナイ所モゴザイマスガ、只今仰ッシャイマシタ通り、之ヲ實行問題トシテ考ヘマスルト、臨時利得稅連脱ノ目的ニ出タモノカドウカ、言葉ヲ換ヘマスレバ事業上ノ必要ヨリ出タモノデアアルカドウカト云フコトヲ認定イタシマスコトハ、實際問題トシテハ可ナリ困難ノ場合ガ生ズルノデアリマシテ、實際問題トシテハ御説ノ通り非常ニ困難ノ場合ガ生ズルと思フノデアリマス、唯衆議院ノ修正案ト致シマシテハ、只今御説ノ通り、今後ニ於ケル所ノ増資ニ付テハ、全部七分ト云フコトデ、一定ノ控除率ヲ極メテ行クト云フコトハ、今後ノ増資ニ付テ幾分ノ壓迫ニ相成リ、産業上ニ幾分ノ壓迫ヲ加ヘル、ソレ程マデノ必要モアルマイデハナイカ、唯必要モナイノニ増資ヲシテサウシテ本稅ノ輕減ヲ圖ルト云フコトヲ、ソレ自體ヲ押ヘレバ宜イデヤナイカ、斯ウ云フコトカラシテ、臨時利得稅連脱ノ目的ニ出タモノト認メラレル場合ト云フコトニヤラレタモノデアラウト思フノデアリ

マス、併ナガラ之ガ實行上、相當困難ノ場合ヲ生ジマスコトハ御説ノ通りデアリマシテ、實行上カラ……實際上カラ申シマスレバ只今仰ツシヤイマシタ通り、總テ増資ニ付キマシテハ、一定ノ控除率デ行クト云フコトノ方ガ餘程宜イノデゴザイマス、唯其場合ニ考慮スベキコトハ、ソレガ或一定ノ期日ヲ置イテ、ソレ以前トソレ以後ノ増資ヲ振分ケテ、ソレ以後ノ増資ノ點ニ對シテ一定ノ控除率ヲ置クト云フコトハ、果シテ産業上ニ及ボス影響如何ト云フ問題ニ相成ツテ來ルト思フノデゴザイマス、サウ云フヤウナコトヲ考慮イタシマシテ、實ハ短期間ノ施行デモアリマス本稅ニ付キマシテ、政府ト致シマシテハ、斯ノ如キ規定ヲ置ク必要ハアルマイ、斯ウ考ヘマシタ次第デゴザイマス、左様御承知ヲ願ヒタイト思ヒマシマス

○**澁澤金藏君** 政府ノ御趣旨ハ能ク了解イタシマシタ、私ノ質問ハ是デ終リマス

○**子爵松平外與麿君** 私ハ甚ダ頭ガ悪イセイデアリマスカ、昨日政府委員ノ馬場委員ニ對スル衆議院ノ修正ニ對スル御説明ノ中ノ、課稅率ヲ變更スル必要ガナイト云フ點ニ付テノ御説明ガ、ドウモ速記録ヲ讀ミマシテ、矢張り法人一割、個人七分五厘ニシテモ宜ササウニモ考ヘルノデアリマス

ガ、此點ニ付テモウ少シハッキリシタ所ノ御説明ヲ今一應伺ヒタイト思ヒマス

○**政府委員(石渡莊太郎君)** 此前ノ戰時利得稅法ニ於キマシテハ、個人ノ稅率ヲ百分ノ十五ニ致シマシテ、法人ノ稅率ハ百分ノ二十ニ相成ツテ居ルノデゴザイマス、ソレデ此法人ノ稅率ト個人ノ稅率トヲ變ヘテ、法人ニ相當重キ負擔ヲシテモ宜イト云フ根據ハ一體何處カラ來ルノカ、斯ウ云フコトニ相成リマスルト、其當時ノ稅法ト致シマシテハ、今日ノ所得稅法ト違ヒマシテ、法人ニ付テハ超過所得稅ト云フモノヲ施行シテ居ラナカッタ、法人ニ對スル源泉課稅トシテ課稅シテ居ルノミデアツテ、個人ニ對スル配當ノ綜合課稅モシテ居ナカッタ、斯ウ云フ時代デアッタノデアリマスルカラ、會社ノ負擔トシテハ、會社ノ負擔ト個人ノ負擔ト形式上見マスレバ、ソレハ配當ノ所得ニ對スル所ノ綜合課稅ハ個人ニ對スル課稅デアリマスルガ、會社企業ニ對スル課稅ト致シテ考ヘマスレバ、會社ニ普通稅率アリ、超過所得ノ稅率アリ、其上ニ其利益ノ分配セラレテ個人ニ歸屬スル場合ニハ、其處ニ又綜合課稅ガ行クト、斯ウ云フコトニ相成リマスルカラ、會社ノ企業ト云フモノニ對スル課稅ヲ總體ニ考ヘマスレバ、今日ヨリ

遙ニ輕イ稅金デアッタト斯ウ言ヘルト思フノデアリマス、サウ云フヤウナ實質ヨリ致シマシテ、其當時ニ於キマシテハ法人、個人ノ稅率ヲ區別シタモノデアラウト斯ウ思フノデゴザイマス、ガ今日ニ於キマシテハ、法人ニ對シテモ相當ナ負擔ガ行ツテ居リマスノデ、法人ト個人ト云フモノノ稅率ヲ區別イタス必要ハアルマイト、斯ウ考ヘタノデゴザイマシテ、稅率ヲ區分イタスノデアラナラバ、區分イタスダケノ何等カ理由ガ欲シイト思フノデゴザイマスガ、此理由ガドウモ發見シ得ナカッタノデゴザイマスカラ、之ヲ同ジ稅率ニ致シマシタ次第デゴザイマス

○**子爵松平外與麿君** サウ致シマスルト、戰時利得稅ノ時代ハ、法人ノ負擔ガ輕カッタ、比較的個人ノ方ガ重カッタト云フ御話デアリマシタ、今日ハ所得稅法ガ改正ニナリマシテ、綜合所得、又ハ超過所得ト云フモノガ出來レバ、法人ノ負擔ガ從來ニ比ベルト、今日ノ所得稅法ノ施行ノ方ガ割合負擔ガ重クナッタト仰ツシヤイマスナラバ、其戰時利得稅ノ割合ノ、個人ト法人トノ負擔ノ均衡、若クハ計數的、若クハ百分比デモ、割合デモ御取リニナリマシタモノガアリマスレバ、御示シテ願ヒタイト思ヒマス、ソ

レカラ今度新シイ所得稅法ノ施行ニ依リマシテ、法人ノ方ノ負擔ガ重クナッタト云フ御話デアレバ、其割合ヲ計數的、若クハ表ヲ以テ參考ニ御示シナルコトハ出來マスマイカ

○**政府委員(石渡莊太郎君)** ソレハ一ツヤツテ見マス、出來マシタナラバ御示シ致シマス

○**菅原通敬君** 一二御伺イタシタイト思ヒマスガ、今ノ法人ト個人トノ間ニ課稅率ヲ異ニスルト云フコトニ付テ、衆議院ノ方カラ修正ガ出テ居ルノデアリマスガ、個人ト法人トノ間ニ稅率ヲ異ニスル必要ハアルマイ、寧ロ同率ニスルガ宜シイト云フ理由トシテ、色々御説明ガアリマシタ、大體了承イタシマシタガ、今松平男爵カラ御尋ニナッタヤウニ、何等カ我ミノ常識上カラ見ルト、個人ノ方ハ法人ヨリモ、大體ニ於テ經濟力ナリ負擔力ト云フモノニ付テハ力ガ弱イ、故ニ從來例ヘバ戰時利得稅ニ於テモ、營業收益稅ニ於テモ、個人ノ方ノ稅率ハ低下サレテアツタ、兔毛角個人ト云フモノハ、所得ナリ收益ト云フモノノ計算上ニ於テハ、有ラユル點ニ於テ不利ナル條件ノ下ニ置カレテ居ルト云フコトハ、是ハ既ニ御承知ノ通りダラウト思ヒマス、法人ノ計算ニ於テト、

個人ノ計算ニ於テトハ、常ニ個人ノ方ガ不利ナル情況ノ下ニ置カレテ居ルト云フコトガアルヤウニ私ハ信ジテ居ルノデアリマス、故ニ法人ト個人トノ間ニ税率ノ差等ヲ設ケルト云フコトガ、常識的ニ認メラレテ來テ居ルノデハナイカト思フノデアリマス、戰時利得稅時代ニ於テハ、超過所得稅ト云フモノガナクッタカラ輕カッタノデアアルガ、今ハ法人ニ對シテ超過所得稅ガカケラレテ居ルカラ、比較的ソレガ重クナッテ居ル、故ニ個人ニ對シテハ比較的輕イト云フコトニナッテ居ルノデアアルカラ、此稅ニ付テハ其間ニ差等ヲ設ケル必要ハナイト斯ウ申サレマスガ、若シ今度ノ臨時利得稅ト云フモノガ設ケラレナクッタナラバ、サウスルト云フト御説ノ通りダト云フト、法人ノ所得ト、個人ノ所得トノ間ニ於テ、既ニ權衡ガ失ハレテ居ルノダト云フコトノ事實ヲ認メラレルコトニナル、私ハサウ言ヒタクナイ、矢張り利得稅ト云フモノガナクテモ、法人所得ト個人所得トノ間ニハ、能ク權衡ヲ保クシテ出來テ居ルト云フ前提デ居ラナケレバナラスモノデアラウト私ハ思フ、個人ノ方ガ割合ニ輕クナッテ居ル、法人ノ方ガ割合ニ重クナッテ居ル現狀デアルト云フコトヲ、前提トサレルコトハドン

ナモノデアリマセウカ、常識的ニ權衡ガ保タレテ法律ガ出來テ居ルノダト、斯ウ見ルノガ正シイノダ、サウスルト矢張り臨時利得稅ヲ新ニ設ケル場合ニ於テハ、從來ハ兩方ノ間ガ公平ニナッテ居ルガ、是モ臨時利得稅ト云フモノニ付テハ、單ニ個人ノ方ガ負擔力ガ弱イノデアアルカラ、其方ノ税率ヲ安クスルト云フコトノ理論ニナラナケレバナラスノデヤナイカト、斯ウ思ハレルノデアリマスガ、其點ヲモウ少シ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ綜合所得稅ト云フコトニナツタカラ、法人ノ企業利益ニ對スル負擔ガ重クナッテ居ルト云フコトモ一ツノ理由ニ加ヘラレテ居ルガ、綜合課稅ニナツタト云フコトハ寧ロ個人ノ所得ガ綜合課稅ニ依ツテ負擔ガ重クナツタト云フ、其方ノ不利ノ條件ニハナルガ、法人ノ方ノ課稅ガ重クナツタト云フコトノ説明トシテハ、ドンナモノデアアルカト云フヤウニ考ヘラレル點ガアルノデアリマス、其惑ヒヲ解イテ載キタイ、ソレカラ假ニ法人ト個人ト云フモノニ付テ、總テニ對シテ課稅ノ差等ヲ設ケルト云フコトガ御同意ニナリ兼ネルトシテモ、個人ノ方ノ所得ノ多イモノニ付テハ、或ハ法人ト選バヌヤウナモノモアリマスルカラ、個人ノ營業ト雖モ法人ト殆ド選バヌモノモアル

ノデアアルカラ、サウ云フヤウナモノハ負擔力ニ於テモサウ困難デハナイモノデアアルカラ、サウ云フヤウナモノニ付テハ法人ト同一率ニ課稅セラレルト致シマシテモ、或階級ノモノ、詰リ五萬圓トカ十萬圓以下ト云フモノニ付テハ、差等ヲ設ケルト云フヤウナコトニスル方ガ負擔力ヲ量ル上ニ於テ權衡ヲ得ルト云フコトニナルノデハナイカ、其點モ併セテ御説明ヲ願ヒタイ

○政府委員(石渡莊太郎) 只今菅原サンカラ御尋ノゴザイマシタ法人、個人ノ負擔ト云フモノガ權衡ニナッテ居ルト云フコトヲ前提ニシナケレバ、ソレヲ同一率ニ依ルト云フコトハオカシイデハナイカ、斯ウ云フ御尋ノヤウデゴザイマシタ、此問題ハ、詰リ法人、個人ノ税率ニ付テハ、法人ト個人ニ付テ、法人ノ負擔ガ相當重クナッテ居ルカラ、今日ニ於テハ同一率デ宜カラウ、戰時利得稅ノ當時ニ於テハ、今日カラ願ミレバ法人ノ負擔ノ方ヲ特ニ重クシタモノデアラウ、斯ウ私ハ申上ゲタノデアリマスルガ、本來ノ問題ト致シマシテハ、法人ト個人ノ負擔力ニ於テ、個人ノ税率ガ重クテ宜イノカ、ソレトモ法人ノ税率ガ重クテ宜イノカト云フ此根本ノ問題ニナリマスレバ、是ハ御承知ノ通り、我國ノ稅法ニ於キマシテモ、個人ノ超過税率ト云フモノハ相當重イ課稅ニ致シテアリマシテ、法人ハ個人ノ企業利益ヲ得ル所ノ一ツノ手段ト見テ居ル、斯ウ云フ立場カラシテ、法人ノ課稅ノ實質論ト致シマシテハイケナイト思フノデアリマスルガ、法人ノ税率ト個人ノ税率ト、一體ドツチヲ重クシテ宜イカト云フコトハ、是ハカナカムヅカシイ問題デハゴザイマスルガ、現實ノ問題ト致シマシテハ、個人ノ税率ノ方ガ多クノ場合ニ於キマシテ重クナッテ居リマス、是ハ綜合累進課稅ト申シマスカ、今日ノ利得稅ノ根本ノ基礎ガ綜合累進ニナリマスルノデ、法人ノ場合ニ於キマシテハ多クノ場合ニ於テハ、其綜合ヲ致シマス所ノ一方法、所得ヲ得ル所ノ一方法トシテ居リマスルノデ、此點ニ付キマシテハ寧ロ法人ノ税率ノ方ガ輕イト斯ウ見テ宜イ場合ガ多イダラウト思フノデゴザイマス、唯法人ノ税率ガ輕イト申シマシテモ、法人自體トシテノ負擔トシテ論ズルヨリモ、寧ロ法人カラ受ケル所ノ配當、俸給ト云フモノガ、個人ニ又課稅サレテ行クノデアリマスルガ、其邊カラ考ヘマシテ、法人、個人ノ税率ハ果シテ其何レヲ重クスベキモノデアラウカト云フコトハ、一概ニハ言ヘナイノデゴザイマスルガ、大體ニ於キ

マシテ所得稅ト致シマシテハ、法人ノ稅率ガ重イ、斯ウ云フコトヲ或程度マデ言ッテ差支ナイト思フノデゴザイマス、ソレデ私ガ申上ゲテ居リマスコトモ、決シテ此法人、個人ノ負擔ノ問題ノ何レノ稅率ヲ重クスベキカト云フコトノ根本問題ニ付テ申上ゲテ居リマス譯デゴザイマセズ、此前ノ戰時利得稅ノ場合ニ於キマシテ、兩者ヲ區分シテ課稅シテ居リタ其當時ト今日ト、所得稅法ガ變テテ居リマスノデ、其點ヲ考ヘマスレバ此間ニ區分スル必要ハナイノデハアルマイカ、斯ウ申上ゲテ居ル次第デゴザイマス、ソレデ此臨時利得稅ハ御承知ノ通り、一種ノ增加稅デゴザイマスノデ、増加シマシタ割合ヲ計算イタシマシテ、其増加シマシタ割合ニ課稅イタスノデゴザイマス、從ヒマシテ其根本問題ノ法人ノ所得ノ計算ノ場合、個人ノ所得ノ計算ノ場合、是ハ所得稅ニ於キマスル根本問題デアリマスガ、其根本問題ハ姑ク措キマシテ、其計算サレタ所得、同ジ計算方法デ、個人ハ個人同士デ、法人ハ法人ニ付キマシテ同ジ計算方法ヲ用キマシテ、サウシテ其増加シタ金額ヲ算出シマシテ、其増加歩合ニ課稅イタスノデアリマスルカラ、我ニト致シマシテ、其間ニ差ヲ設ケル必要ハナイノデハアルマイカ、斯ウ考ヘテ居リ

マス次第デアリマス、即チ法人ト個人トニ當リマシテ計算ノ仕方ハ、所得ノ算出ノ仕方ハ變テテ居リマスルガ、併ナガラ一旦所得ヲ算出シタソレノ比較デアリマスカラ、其比較ニ付キマシテハ、是ハ同ジニ扱ッテモ宜イノデハナカラウカ、斯ウ考ヘテ居リマス次第デアリマス、ソレカラ其次ノ御尋ノ配當ハ個人ノ負擔ニナルノデアツテ、法人ノ負擔ハナイノデハナイカ、從テ之ヲ以テ會社ノ負擔トシテ重クナツタト考ヘルノハドウデアラウカト云フ御說デゴザイマスガ、如何ニモ其通りデゴザイマス、配當ハ個人ニ於テ課稅イタスノデゴザイマスルガ、併ナガラ之ヲ會社ノ企業ニ對スル負擔ト致シテ考ヘマスレバ、其負擔ガ個人ニ於テ負擔ヲ致サウト、法人ニ於テ負擔ヲ致サウト、之ヲ一括シテ考ヘマスレバ、會社ノ企業、營業ノ經理トシテノ負擔トシテハ、個人ノ配當課稅ノ問題モ考慮ニ入レテ、之ヲ考ヘル必要ガアルト斯ウ思フノデアリマス、今日ニ於キマシテモ、色々利廻リヲ算出スル場合ニ於テモ、社債、公債等ニ付テモ、第二種所得稅ハ利子ヲ受取ル人ノ負擔ニ屬スベキモノデアリマスレバ、是モ矢張り其モノノ利子、社債ト云フモノノ負擔トシテ考ヘル場合ニハ、考慮イタサナケレバナラヌ

ト思フノデゴザイマス、同様ニ矢張り此配當ニ對スル負擔ト云フモノモ、會社ノ利益ニ對スル負擔トシテハ考慮スベキモノデアラウト斯ウ思ッテ居リマス、今一ツノ御尋ノ個人ノ大所得者ニ限ッテ負擔ヲ重クシテモ宜イデハナイカ、斯ウ云フ御尋デゴザイマス、是モ一ツノ考ヘダト思フノデゴザイマスガ、是ハ此、本院ニ於キマスル一ツノ考ヘ方トシテ御尤ノ點モアルノデアリマスルガ、一種ノ累進課稅ノヤウニモ相成ルヤウナ譯デアリマシテ、其點ニ付キマシテ、本稅ハ寧ロ増加シタ増加歩合ニ對スル課稅デ、増加利得ニ對シマスル増加稅デアリマスノデ、十萬圓以下ノ所得者、五萬圓以下ノ所得者ト云フ場合ニ於キマシテ、之ニ對シテ稅率ヲ低ク致スト申シマシテモ、必シモ其五萬圓以下ノ所得者、十萬圓以下ノ所得者ト云フ者ノ増加率ガ多イト云フ譯デアリマセズ、其點ニ於キマシテハ、寧ロサウ云フ制限ヲ置カナクテモ宜イノデハナカラウカト斯ウ考ヘマシタ次第デゴザイマス、一ツノ御意見デハアラウト思フノデゴザイマスルガ、本案ノ如キ増加稅ニ付テハ、如何カト存ジテ居リマス次第デゴザイマス

ルノ可否、又其理由ト云フコトニ付テハ多少御意見ト異ナル所ガアリマスケレドモ、是レ以上申上ゲルト云フト意見ニナリマスルシ、議論ニナツデモ如何カト思ヒマスカラ、ソレハ止メテ置キマスルガ、此個人利得、個人ノ方ニ於テ大キナ利得者ノ方ニ對シテハ法人ト同様ニスル、サウシテ小サイ利得者ノ方ニハ稅率ヲ多少低下スルト云フヤウナ方法ヲ設ケルト云フヤウナコトニ付テ私御意見ヲ伺ッタノデアリマスルガ、ソレト云フノハ衆議院ニ於テ法人ト個人ト稅率ヲ異ニスルコトニ修正サレテ來テ居ル、之ヲ又原案ニ戻スカ、或ハ衆議院ノ修正ニ贊成スルカト云ツタヤウナ意見ガ起ル場合ニ於テ、若シ個人ノ方ニ於テ、セメテハ小利得者ニ對スル分ダケニ付テモ衆議院ノ意見ヲ採用スルト云フヤウナコトニシテ行ツタナラバ、多少其言葉ハ惡イノデアリマセウケレドモ、妥協的ニナルノデヤナイカト云フヤウナ考ヘナドモ起ル譯デアリマス、敢テサウ理論ニノミ拘ハル必要ノナイコトデアラウト思ヒマスルシ、今ノ増加稅ト云フモノデアツテ、絕對所得ニ對スルモノデアナイカラ、其處ニ累進率ノ意味ガ加ハルヤウナコトハ面白クナイト云フ御意見モ、私ハ理由ナイコトデハナイト思ヒマス、思ヒマス

○菅原通敬君 詳細ナ御説明ヲ伺ヒマシテ

ケレドモ之ヲ二ツノ階級ニ分ケルト云フヤウナコトハ、サウ累進の課税ダト云フヤウナ見方ヲシナクテモ宜イノヂヤナイカ、サウシテ實際ニ於テ上ノ方ノモノハ負擔力ノ強イモノデアル、ソレカラ下ノ方ノ下級ノ方ハドウシテモ負擔力ノ弱イ奴ガアルカラ、其處ノ間ニ上下ノ差別ヲ付ケテ、税率ノ差等ヲ設ケルト云ツヤウナコトハ餘程緩和シタコトニナルノヂヤナイカ、之ニ依ッテ或ハ租税ノ收入ノ方ニモ影響スルト御覽ニナル方ガアルカモ知レマセヌガ、併ナガラ今申スヤウナ二ツノ階級ニ分ケタ場合ニ於テ、下ノ方ヲ例ヘバ〇・七五ニ税率ヲ低下シテモ、ソレニ依ッテ減ズル所ノ收入ト云フモノハ極メテ少イモノダラウト思フ、私ハソレニ對シテハ又他ノ修正ニ依ッテ此處デ補ッテ行クコトガ出來ルコトモアラウト思ッテ居リマス、ソレハ又別ニ申上ゲマス、サウ云フヤウナ點モアルノデアルカラ、其點ニ付テ餘リ考慮サレズシテ、單ニ之ヲ二ツノ階級ニ分ケテ行クト云フヤウナコト位ニ折合ッテハドウデアラウカト云フ、斯ウ云フヤウナ考カラ申上ゲタ譯デアリマス、ソレカラモウ一ツ伺ヒマス、所謂基準年度ノコトデアリマス、昨日……一昨日デアリマシタカ、馬場委員ニ對スル御答辯ノ中ニ、

基準年度ト云フモノヲ三年平均ニスルカ、四年平均ニスルカ……二年平均ニスルカ三年平均ニスルカト云フヤウナコトハ、是ハ程度ノ問題デアルト云フヤウニ御答辯ニナツタヤウニ私ハ伺ツタノデアリマス、四年ヲ加ヘテ三年平均ニスルカ、四年ヲ除イテ五六ダケノ二年平均ニスルカト云フヤウナ、其事カラノミ言ヘバ成程程度ノ問題ノヤウデアリマスケレドモ、一體基準年度ト云フモノヲ置イタ趣旨、所謂基準年度ナルモノノ性質カラ言フト、ドウモソレハ程度ノ問題ヂヤナイ、私ハ性質ノ問題ニナルノデナイカト思フノデアリマス、ソレデ惟フニ今度ノ利得税ナルモノハ、財界ノ影響ニ依ッテ受ケタ特別ナル所得ニ對シテ、其増加額ニ對シテ課税ヲシテ行クノダト云フコトニアルトシマスト云フト、其増加ト云フモノハ財界ノ影響ニ依ッテ生ジテ來タコトデアリマス、其増加ナルモノハ財界ノ影響ト云フ特別ナル理由ニ依ッテ、特別ナル臨時ノ利得ガ生ジテ來タカラト、斯ウ云フコトデアルト思ハレルノデアル、サウスルト其臨時ノ利得デアルトカ、増加利得デアルトカ云フヤウナモノハ、何カラ見テ行クカト云フト、平常ノ利得、平常年度ノ利得ト云フヤウナモノト對照シテ、其間ニ生ジタル増加、所謂増差ト云フ

モノニナルノダラウト思フ、サウスルト基準ト云フモノハ、平常ノ所得ヲ生ンデ居タ時代ノト云フコトニナラナケレバナラス、サウスルト云フト、五年トカ六年トカ云フヤウナ特別ナル事情ニ依ッテ、非常ナ不況ノドン底ニアツタ其時ヲ捉ヘテ、ソレニ對照シテ行クト云フコトハ、ソレハ平常ノ所得ヲ生ジテ居ツタ時トハ見ラレヌノデアルカラ、サウスレバ矢張り四年度ト云フヤウナモノヲ加ヘテ見テ行クコトガ平常ノ所得ト云フモノヲ見ルニ近イモノニナルノデハナイカ、詰リ四年ト云フモノヲ加ヘテ三年平均ニシテ行クト云フコトガ正シイノデナイカ、又理論ニ適ッテ居ルノデナイカ、斯ウ云フヤウニ思ハレル、若シ然ラズシテ七年度以降ノ増加所得ニ對シテ課税スルノデアアルカラ、其直前ノ時ノ所得ニ比較シテ、ソレヲ見テ行クノダト云フコトニナルナラバ、五年度モ加ヘル必要モナイ、ソレナラバ六年度ダケ見テ行ケバ宜シイ、其一瞬間、其期間、遷リ變リ行ク直前ノ、其時ノ状態ニ比較シテ行ケバ、ソレデ宜イノデアアルガ、然ラズシテ五年モ加ヘテ見ルト云フ趣意ガアルトスルト、其處ニ成ルベク平常ノ所得ト云フモノヲ捉ヘテ行カウト云フ意味ガ加ッテ居ルモノト見ナケレバナラス、サウス

ルナラバモウ一年加ヘテ四年ヲ入レテ、サウシテ三年平均ニスル方ガ正シイヤリ方デハナイカ、斯ウ云フヤウニ考ヘルノデアリマスガ、但シ四年度ヲ加ヘテ行クト云フヤウニナルト、百二十萬圓トカ云フヤウナ收入ニモ減ヲ生ズル、ソレデハ困ルト云フヤウナ御説明デアリマシタガ、ソレハ先刻申シタ、私他ニ生ム財源ガナカラウカト斯ウ考ヘテ見ルト云フト、是モマア一ツノ御尋ニナルコトニナリマスガ、法人ト個人トニ通ジテ二千圓ヲ控除スルト云フアノ二千圓ノ控除ト云フモノヲ、總テニ通ジテヤルト云フ必要ハナイヤウニ思ヒマス、五十萬圓ヤ百萬圓ト云フヤウナモノニ對シテ二千圓ヲ引イテヤツタ所ガ何ニモナラヌ、マアサウ云フ大キナモノハアルカ無イカ分リマセヌガ、免モ角一萬圓トカ一萬五千圓以下ノモノニ對シテハ、二千圓位減ジテアルト云フコトモソレハ理由ニモナルシ必要モアリマセウ、併ナガラ數萬或ハ其以上ノ數十萬ト云フヤウナモノニ對シテハ、二千圓引イテヤツタ所ガ何ノ足シニモナラナイノデアリマスカラ、サウ云フモノハ止メテシマフト宜イノデアリマス、之ヲ二萬圓以下アタリノモノカラノミ控除シテ、上ノ方ハ採ラヌト云フコトニナルト、何デモ百萬圓位ノ増

收ニナルヤウナ計算ニナルカトモ思フノデ
スガ、其邊モ一ツ心得テ戴キタイ、サウス
ルト云フトソコデ百萬圓以上或ハ百五十萬
圓位ノ增收が見ラレルヤウナコトニナルカ
ラ、今ノ基準年度ノコトナリ、成ハ稅率輕
減ノコトナリト云フコトガ、反對ノ理由ガ
主トシテ收入ヲ減ズルト云フコトニアルナ
ラバ、他ニ理由ガ重大ナルモノガアルナラ
別デスガ、收入ヲ減ズルト云フコトガ、豫
算ヲ決メテシマツタ以上ハ收入ヲ減ズルト
云フコトガ困ルト云フコトガ重大ナル理由
ニナツテ居ルト云フコトデアラナラバ、サウ
云フ邊ニ付テモ考ヘル必要ガアリハセヌカ、
斯ウ思フ故ニ御尋ヲスルノデアリマス

○政府委員(石渡莊太郎君) 昭和五年六年
ノ平均ニ依ルト云フコトト、四、五、六ト
云フ三箇年ヲ標準ニ取ルト申シマスルコト
ハ程度問題デハナイ、是ハヨリ良キ改善案
デアル、寧ロ程度問題ヲ超エテノ良キ案デ
ハアルマイカト、斯ウ云フ菅原委員ヨリノ
御尋デゴザイマスルガ、此利得稅ノ性質ト
致シマシテ、或一定ノ時期ヲ定メマシテ、
ソレ以後ノ利益ノ増加ト云フモノヲ見テ行
クト云フコトノ方針ヨリ致シマスレバ、今
同ノ利得稅ニ於キマシテモ亦此六年ト七年
ト間ヲ區切ルト申シマスルコトガ、私ハ重

要ナ一點ダト思フノデゴザイマス、サウ致
シマシテ其前一箇年ヲ取ルカ、二箇年ヲ取
ルカ、三箇年ヲ取ルカ、場合ニ依ツテハ四
箇年ヲ取ルカト云フヤウナコトハ、是ハ私
ハ實ハ平均利益ヲ算出スル合理的ナル一ツ
ノ方法ト、サウシテ後ハ課稅上ノ實際上ヨ
リ來ル官民相互ノ手數ヲ省クト云フ所ノ、
課稅上ノ實際ノ便宜カラ生ジテ來ル二ツノ
理由ニ依ツテ、此年限ト云フモノハ定メラ
ルベキモノデアラウト思フノデアリマス、
是ハ各國ノ立法ニ於キマシテモ亦非常ニ差
異ガゴザイマス、戰時ニ逢ヒマシタ其前ノ
二箇年ヲ取ルト云フ方法モゴザイマス、又
三箇年ヲ取ルト云フ方法モアルト思フノデ
ゴザイマス、ソレデ前一箇年ヲ取リマス
云フコトハ、會社ノ狀態ニ取リマシテ可ナ
リ不同ガアルト思ヒマスノデ、ドウシテモ
是ハ二箇年以上ノモノヲ取ル必要ガアルト
思フノデゴザイマス、此戰時利得稅ノ時
ニ於キマシテモ大正元年、ソレト大正二年
ト云フ二箇年ヲ取リマシテ、其平均ヲ致シ
マシタ次第デアリマシテ、ドウシテモ二箇
年位ハ取ル必要ガアルト思フノデゴザイマ
ス、其上ニモウ一箇年取ル必要ガアルカド
ウカト云フコトニ付キマシテ、私共ト致シ
マシテ之ガ課稅ノ便宜上カラ、又實際上カ

ラ致シテ、モウ一箇年足シテ取ル必要ガア
ルカドウカト云フコトニ付テ疑ガアル、ヨ
リ良キ案デアルト云フコトニ疑ガアルト云
フコトヲ此前申上ゲテ置キマシタ次第デゴ
ザイマシテ、此四、五、六ト云フ三箇年ヲ
取ルコトニ定メマスト相當ノ歳入ガ減ル、
相當ノ歳入ガ減ルト云フコトモ政府トシテ
此點ニ對スル同意ヲ躊躇ヲ致シテ居リマス
一ツノ大キナ原因デアリマスガ、更ニ四、
五、六ト云フ三箇年ヲ採ルト云フコトガ、
果シテ良キ修正デアアルカドウカト云フコト
ニ付キマシテモ亦躊躇イタシテ居ルノデア
リマス、一方ニ於キマシテハ七分ト云フヤ
ウナ緩和規定ヲ置キマシテ、五年六年當時
ノ不況ナ、其當時ノ不況ヲ反映イタシマシ
テ業績ノ擧ラナカッタモノニ付テハ、相當緩
和ノ方法ヲ執ツテ居ルノデアリマシテ、之ニ
モウ一箇年ヲ加ヘマシタ所ガ、是ハ要スル
ニ程度ノ問題デアアルマイカト斯ウ申上ゲ
マシタ次第デアリマス、ソレカラ其次ニ只
今御尋ノ、法人個人二千圓控除ト云フモノ
ハ、或一定ノ所得金額ニ依ツテ、一定ノ限度
ニ限ツタラドウカト云フ、斯ウ云フ御尋デゴ
ザイマスガ、是モ確ニ一ツノ御考ダト思ヒ
マス、ガ此二千圓控除ト云フコトニ付キマ
シテハ所得ノ大小ヲ問ハズ、其絕對額ノ大

小ヲ問ハズシテ、所得金額ノ二千圓ヲ控除
イタシマスノデゴザイマスカラ、從テ所得
金額ノ少キモノガ課稅カラ或ハ免レ或ハ輕
減ヲ受ケル斯ウ云フコトデゴザイマシテ、
ソレガ此二千圓控除ニ依リマシテ相當多數
ノ法人ガ、課稅カラ落ちル結果ト相成ルコ
トト思ツテ居ルノデゴザイマス

○菅原通敬君 マア基準年度ノ問題ニ付テ
ハソレダケデ措キマシテ、今ノ二千圓控除
ト云フモノヲ或一定額以下ノモノノミ認メ
テ、其一定額以上ノ越シタモノニハ之ヲ認
メナイト云フコトニスルト云フコトハ、理
論上ニ於テ何等差支ナイコトデアラウト私
ハ思ヒマス、併ナガラ實際問題トシテモ、
先程申シタ通りサウ大キナモノニ對シテ二
千圓バカリノモノヲ控除シテヤツタ所ガ、何
ノ足シニモナラヌノデ、唯形式的ノ控除ノ
ヤウナモノニ止マルノデアリマス、而シテ
ソレガ又一方ニ於テ國家ノ方カラ……國ノ
收入ノ方カラ見マシテ相當ナ收入ガ擧ガル
ト云フコトデアラナラバ、他ノ方ニ於テ減
ズルモノヲ補フ爲ニ、ソレヲ認メルト云フ
ヤウナコトニサレルコトモ一ツノマア方法
デアラウト思フノデアリマス、若シ假ニ一
萬圓トカ一萬五千圓トカ云フモノ以下ニノ
ミヤルノダト云フコトニシテ、計算ラシテ

シテハ所得ノ大小ヲ問ハズ、其絕對額ノ大

シテハ所得ノ大小ヲ問ハズ、其絕對額ノ大

戴クヤウナコトハ出來マセウカドウカ

○政府委員(石渡莊太郎君) 出來ルダケ計

○菅原通敬君 ソレカラ此衆議院ノ修正ニ

依リマス、先程澁澤君カラモ質問ガアツタ

ヤウデアリマスガ、通脱ノ目的ニ出ダタル

モノト否トヲ鑑別スルト云フコトハ是ハ到

底出來ルモノデヤナイ、ソナコトヲヤル

ヤウナコトニナリマシタナラバ、稅務ノ執

行上非常ニ紛更ヲ來ス虞ニナルコトデアラ

ウト云フコトヲ、私モ感シテ居ル一人デア

リマス、假ニ其コトハ姑ク措イテ、脫稅ノ

目的ヲ以テ資本増加ヲ圖ツタト云フヤウナ

事例ハ、從來御認ニナツタモノガアリマス

カ、アリマセヌカ、例ヘバ所得稅ノ超過所

マセヌケレドモ、併ナガラ斯様ニ資本ヲ增

加スレバ、自分ノ超過所得ト云フモノガ輕

減ニナルヤウニナルカラト云フ意思ヲ以テ、

是ガ増資ヲシタト云フモノカドウカハ執行

ノ時ニ當ツテ私ハ脱メテ居ルモノデアラウ

ト思フカラ、ソレ等ノコトニ付テハ必ズ私

ハ相當ニ、若シアツタトスルナラバ見テ居ラ

レルト思フノデアリマス、併シ今迄御調ニ

ナツタコトハナイト云フコトナラバ、ソレマ

デノコトデアリマス、ソレカラ之ニ付テ尙

ホ御尋シテ見タイノハ、若シ斯ウ云フヤウ

ナ利得稅通脱ノ目的ヲ以テ資本ノ増加ヲ

圖ツタモノニ對シテハ、基準年度ノ歩合

ヲ七分ニ引下グル、斯ウ云フコトデアリマ

ス、七分以上ノモノデモ七分ニ引下グル、

ソレガマア一ツノ制裁ト云フコトデアリマ

セウガ、若シ愈、通脱ノ目的ヲ以テヤツタト云

フヤウナコトデアルナラバ、七分ナント云

フモノマデ認メテヤルト云フコトモ餘リニ

輕キニ失スルモノデアツテ、何モ意味ノナイ

コトデアル、寧ろ全く無カッタモノトシテ

全部取ツテモ宜イト云フヤウナコトニマデ

ニ行カナイト制裁規定ニナラヌト思ヒマ

ス、ソレカラ尙又基準年度ノ間ニ於テ七分

ハ思ハレナイ、極メテ少イモノデアラウト

思フ、サウスルト云フト此適用ヲ受ケルモ

ノモ極メテ少イヤウニ思フノデ、此法文ノ

規定ト云フモノハ餘リ働キヲナサヌト云フ

コトニナリハシナイカ、其七分以上ノ利益

ヲ擧ゲテ居ル會社ノ數ト云フヤウナモノニ

付テ、何か御調ニナツタモノガアリマスレバ

拜聽シタイト思ヒマス、ソレカラ又七分ニ

止メルト云フヤウナコトダケデ、一體之ヲ

押ヘルコトガ出來ルモノカドウカト云フコ

トニ付テモ、御見込ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○政府委員(石渡莊太郎君) 菅原サンノ御

質問ハ誠ニ御尤デアルト思ヒマス、七分以

上ニナルモノガ幾ラアルカ、是ハ御手許ニ

書類ガ差出シテアルカト思ヒマス、若シア

リマセヌデゴザイマシタナラバ、更ニ謄寫

イタシマシテ、七分以上ノ金額ハ昭和四、

五、六、七、八位ノ調査ガアツタカト思ヒマ

ス、七分以上ノ會社ノ數、所得額ト云フヤ

ウナモノヲ御手許ニ差上グルコトニ致シマ

ス、ソレカラ先程ノ、其前ノ御尋ノ資本増

加ト云フモノニ付テ、稅務署ト超過所得ト

ノ關係、其他ニ付テ問題ニナツタモノハナイ

カト、斯ウ云フ御尋デゴザイマシテ、私少

ニハナラナカッタノデアリマスガ、併ナガラ

架空ノ資本ヲ増加イタシマシテ、ソレニ依

リマシテ輕減ヲ圖ルト云フヤウナコトヲ考

ヘマシタモノニ付キマシテハ、其架空ノ資

本等ニ付テハ稅務署長ニ於テ之ヲ否認イタ

シマシタモノハ幾多實例ガゴザイマス、其

事ダケヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマス

○野村徳七君 大藏大臣ニ此際御尋イタシ

タイト思ヒマス、一般稅制整理ガ行ハレマ

スル時ニハ恐ラク此臨時利得稅ハ廢メラレ

ルモノデアルト云フコトヲ衆議院ノ委員會

デ御答ニナツテ居ルヤウデゴザイマス、尙ホ

此一般的稅制整理ガ國策審議會ニ問題ガ委

ネラレマスル時ニハ、大藏大臣ノ御考ノ中

ニハ財産稅、是ハ私共素人デ分リマセヌガ、

補完稅ト云フ性質ノモノカドウカ存ジマセ

ヌガ、免ニ角財産稅ト云フモノガ設ケラレ

ルヤウニ解セラレルヤウナ御答ヲ承ルノデ

アリマス、ドウモ戰時利得稅ノ經過カラ考

ヘマシテモ、大正九年ト大正十五年ノ兩度

ノ稅制整理ニ依リマシテ、法人ニハ超過所

得稅トナリ、個人ニハ第三種ノ所得ノ改正

トナリマシテ、著シイモノニハ配當金ニモ

課稅セラレタ上、個人ニハ綜合課稅ガ行ハ

○菅原通敬君 今迄ハ無論法律ノ規定ニハ

脫稅ノ目的ト云フヤウナコトハ現レテ居リ

メテ少イモノト思ヒマス、サウ澤山アルト

以上ニ廻ツテ居ル會社ノ數ト云フモノハ極

シマツテ居ルト云フヤウナコトニナツテ居ルヤウデアリマス、必ズ此臨時利得稅ト云フモノニ對シマシテモ、現在ノ財政ナリ又經濟界ノ事情ニ急變ノナイ限りハ、相當ノ稅額收入ノ成績ヲ示シマシテ、其始末ト致シマシテハ、斯ウ云フヤウナ方法ニナツテ行クデアラウト云フ一端ヲ御示シニナツタカノヤウニ伺フノデアリマスガ、大藏大臣ノ頭ノオ中ニハ、サウ云フコトガ矢張り只今御計畫、御考ニナツテ居リマスノデアリマセウカ、參考ノ爲ニ伺ヒタイノデアリマス

○國務大臣(高橋是清君) 御尋ノ何ハ能ク私ニハチヨット分リマセヌデシタガ、今ノ臨時利得稅ハ他日所謂此内閣ニ設ケラレル審議會ノ問題トナツテ、一般稅制ノ改正デモスル場合ニ於テ、矢張り是ガ此儘存續スルカト云フ意味ノ御尋デアリマスガ、若シサウ云フ意味ノ御尋デアッタナラバ、私ハ此問題トナツテ居ル臨時利得稅ノ如キハ、決シテ其儘存續スルモノデハナイ、ソレカラ將來ノ稅制ノコトニ付テ私ノ抱懷シテ居ルコトニ付テ御尋デアリマスガ、私ハ今日ハ自分ノ往年持ツテ居ッタ其意見ニハ決シテ執著シテ居ラヌノデアリマス、國策審議會ト云フヤウナモノガ出來テ、ソレノニ皆知識經驗ノ有ル方ミガ集ツテ議スルノデアリマスカラ、

其モノニ對シテハ自分ガ豫テ懷イテ居ッタ考ハ捨テテ、全ク白紙ヲ以テ臨ミタイト思ツテ居ル、私ノ懷イテ居ッタ考ノコトモ餘程古イノデアリマシテ、其時分ニハ中央政府ノ主ナル歳入ト云フモノハ主トシテ此所得稅、ソレカラ消費稅、關稅、專賣益金ト云フヤウナ、サウ云フモノカラ生ズル所ノモノヲ以テ主ナル歳入トシテ、而シテ當時調ベテ見マシタ所ガ、ドウモ唯所得稅ダケニ對象物ヲ置イテ財產稅ト云フモノヲ見ナイト云フト、ドウモ負擔ノ公平ヲ期スル譯ニ行カヌト云フヤウナ考ガ起ツテ居ッタノデス、ソレデ幾ラカ此負擔ノ公平ヲ期スル爲ニ所得ノ外ニ假令收入ノナイ財產デモ、ソレダケノ物ヲ持ツテ居ル人ハ擔稅力ガアルト見テ、所得稅ニ合セテ財產稅ヲ起シタナラバ、其租稅負擔ノ公平ガ期セラレル、斯ウ考ヘテ居ッタノデス、其後私ハ能ク研究シテ見マシタ、然ルニ今日デハモウ前申ス通り審議會ト云フモノガ出來ルノデゴザイマスカラ、サウ云フ機關ニ先ヅ委シテ、其機關ノ決スル所ニ付テ自分ノ考ヲ更ニ用キタラ宜カラウト考ヘテ居リマス

サウシテ果進率ガ課セラレテ居リマス今日デハ、銀行預金ソレカラ公債ノ利札ト云フヤウナモノハ綜合課稅ヲ課セラレマセヌ爲ニ、其配當課稅ト云フコトニ對シテ不公平デアルノミナラズ、是ハ昭和六年以前ニハ盛ンニ問題ニナツタノデアリマス、斯ウ云フ課稅ガ繼續サレテ參リマス、國家産業ニ投資スル觀念ガ乏シクナル、殊ニ昭年五六年ノ「デフレーション」ノ時代ニハ、商工會議所ノ決議ニモナリマシテ、當局ニ再三陳情ヲシタコトデアリマスガ、其後一般産業界ガ好轉シマシテ、只今コソ此聲ハ薄クナツテ居リマスガ、又必ズ起ル問題ト思フノデアリマスルガ、詰リ配當所得ニ對シテ源泉課稅ヲ叫ンデ居ル其實情ニ對シテ、只今モ矢張り源泉課稅ニ直スト云フ御考ハ御持チニナツテ居リマセヌノデセウカ、如何デアリマスカ

○野村徳七君 モウ一ツ伺ヒマスガ、此株式ノ配當金ニ課稅サレマシテ、ソレガ個人ノ場合デアリマスガ、綜合課稅ヲ受ケテ、

ハ二重ノ負擔ニナルト云フコトデ隨分ヤカマシカッタ、併シ矢張り源泉課稅ダケニ止メズ、配當金ハ一應會社ニ於テ利益ノ上ニ課稅サレ、其又配ヲ受ケタ個人ハ所得稅トシテ果進課稅ヲ受ケルト云フコトデアッタガ、之ガ其後改マラヌヤウニ思ツテ居リマス、併シ今ノ御話ノサウ云フコトニナルト云フト、製造工業、産業ニ資本ヲ投ズルモノヲ抑制スルト云フヤウナ御懸念ガアルケレドモ、ドウモソナコトハナイヤウデスナア、源泉課稅ニ止メル、或ハ之ヲ併セテ又所得稅ニ、果進課稅ノ中ニ加ヘルカラ、ソレガ爲ニドウモ資本ヲ、株式ニ投資ヲセヌト云フヤウナ考ハ、稅ガ本ニナツテサウ云フ考ヲ起スト云フコトハ先ヅ當今ニ於テハナイヤウニ思ヒマス、我國ニ於テサウ云フコトガアツタカ知ラヌガ、私ハ氣ガ付キマセヌ、詰リソレ所デナイ、財界ノ景氣ニ依ツテ投資スルトカシナイトカ云フ、其奮發ノ出來ルカ出來ナイカト云フコトヲ決メルノガ主デアツテ、課稅方法ニ依ツテ會社組織ノ投資ヲ妨ゲルト云フヤウナコトハ先ヅ私ハナカラウト思ツテ居リマス

ハ二重ノ負擔ニナルト云フコトデ隨分ヤカマシカッタ、併シ矢張り源泉課稅ダケニ止メズ、配當金ハ一應會社ニ於テ利益ノ上ニ課稅サレ、其又配ヲ受ケタ個人ハ所得稅トシテ果進課稅ヲ受ケルト云フコトデアッタガ、之ガ其後改マラヌヤウニ思ツテ居リマス、併シ今ノ御話ノサウ云フコトニナルト云フト、製造工業、産業ニ資本ヲ投ズルモノヲ抑制スルト云フヤウナ御懸念ガアルケレドモ、ドウモソナコトハナイヤウデスナア、源泉課稅ニ止メル、或ハ之ヲ併セテ又所得稅ニ、果進課稅ノ中ニ加ヘルカラ、ソレガ爲ニドウモ資本ヲ、株式ニ投資ヲセヌト云フヤウナ考ハ、稅ガ本ニナツテサウ云フ考ヲ起スト云フコトハ先ヅ當今ニ於テハナイヤウニ思ヒマス、我國ニ於テサウ云フコトガアツタカ知ラヌガ、私ハ氣ガ付キマセヌ、詰リソレ所デナイ、財界ノ景氣ニ依ツテ投資スルトカシナイトカ云フ、其奮發ノ出來ルカ出來ナイカト云フコトヲ決メルノガ主デアツテ、課稅方法ニ依ツテ會社組織ノ投資ヲ妨ゲルト云フヤウナコトハ先ヅ私ハナカラウト思ツテ居リマス

○野村徳七君 實ハ此數年法人「コムパニー」ガ日本デ發達ヲ妨ゲテ居ル理由ハ一ツハ配當課稅ニアルト思ヒマス、尤モ何ト申

ルケレドモ、其當時「アメリカ」ニ於テモ是

ハ二重ノ負擔ニナルト云フコトデ隨分ヤカマシカッタ、併シ矢張り源泉課稅ダケニ止メズ、配當金ハ一應會社ニ於テ利益ノ上ニ課稅サレ、其又配ヲ受ケタ個人ハ所得稅トシテ果進課稅ヲ受ケルト云フコトデアッタガ、之ガ其後改マラヌヤウニ思ツテ居リマス、併シ今ノ御話ノサウ云フコトニナルト云フト、製造工業、産業ニ資本ヲ投ズルモノヲ抑制スルト云フヤウナ御懸念ガアルケレドモ、ドウモソナコトハナイヤウデスナア、源泉課稅ニ止メル、或ハ之ヲ併セテ又所得稅ニ、果進課稅ノ中ニ加ヘルカラ、ソレガ爲ニドウモ資本ヲ、株式ニ投資ヲセヌト云フヤウナ考ハ、稅ガ本ニナツテサウ云フ考ヲ起スト云フコトハ先ヅ當今ニ於テハナイヤウニ思ヒマス、我國ニ於テサウ云フコトガアツタカ知ラヌガ、私ハ氣ガ付キマセヌ、詰リソレ所デナイ、財界ノ景氣ニ依ツテ投資スルトカシナイトカ云フ、其奮發ノ出來ルカ出來ナイカト云フコトヲ決メルノガ主デアツテ、課稅方法ニ依ツテ會社組織ノ投資ヲ妨ゲルト云フヤウナコトハ先ヅ私ハナカラウト思ツテ居リマス

○野村徳七君 實ハ此數年法人「コムパニー」ガ日本デ發達ヲ妨ゲテ居ル理由ハ一ツハ配當課稅ニアルト思ヒマス、尤モ何ト申

ルケレドモ、其當時「アメリカ」ニ於テモ是

シマスカ、時局ニ惠マレテ居ル利益ノ非常ニ多イ勇敢ナル會社モ、勇敢ナル企業家モアルヤウデアリマスケレドモ、日本デ法人「コムパニー」ノ發展ヲ妨ゲル大ナル理由ハ私ハドウモ此配當金ニ對シテ、綜合課稅ガ行ハレル結果デ、ソレガ最モ重大ナル原因ヲナシテ居ルヤウニ心得ルノデアリマス、其點ハ恐ラク御同感カト存ジマス、モウ一ツ伺ヒタイノデスガ、只今此九年度ノ未發行公債ガ四億七千餘萬圓ゴザイマス、其内チラツト新聞ナドデ見マスルト云フト、本年度ニ其内發行サレル公債ガ三億四五千萬圓位ノ程度ノヤウニ傳ヘテ居ルノデアリマス、サウ致シマスト一億二千萬圓程未發行公債ノ中デ未募集公債ガ出來マス、ソレハ私ノ觀察ガ誤ッテ居ルカモ分リマセスガ、九年度ニ於ケル自然増收ガ恐ラク一億圓若クハソレ以上ニモ達シテ居ルノデハナイカ、又豫算ノ不用額ガ可ナリ相當額ニ達シテ居ルノデハナイカ、免ニ角モウ本年度ト申シマシテモ半月ヲ餘スバカリニナツテ居リマス、ニモ拘ラズ四億七千萬圓カラノ未募集公債ガ茲ニ存在シテ居ル、而モ本年度ノ、詰リ九年度ノ公債募集ノ豫定額ガ九億圓程ト存ジマスカ、半バ以上未募集額ガ存在シテ居ルト云フ譯デアリマス、モウ今日ニナリマ

シテハ大方自然増收額トカ不用額トカ云フモノガ大藏省デハ御分リニナツテ居ルコトト思ヒマスガ、如何ナモノデアリマスカ
○國務大臣(高橋是清君) 前ノ法人「コムパニー」ノ御話ガアリマシタガ、先ヅ其コトニ付テ私ノ考ヲ申上ゲテ誤解ノ無イヤウニシテ置キタイ、法人「コムパニー」ノ方ノ利益ノ點カラ言ツタナラバ今ノヤウナ、先刻御話ノヤウナ理由モ起テ來マセウガ、一體此法人「コムパニー」ト云フモノナドガ今日所謂資本ノ横暴ナント言ハレル本ヲナシテ居ル、是ハヤリ方ニ依リマシテハ誠ニ必要ナモノデアルケレドモ、動トモスルト其力ガ社會的ニモ政治的ニモ喰込ンデ行ッテ、寧ロ一般庶民ノ利益ト云フモノヲ考ヘズニ唯其資本關係者ノミノ利益ヲ圖ル爲ニ、或ハ政治ニ其勢力ガ及ブト云フヤウナコトガ重ナリ重ナツテ行ッテ、今日資本ニ對スル惡感情ヲ起シタヤウナコトニナツテ居ル、我國デハ外國ノ眞似ヲシテ矢張り法人「コムパニー」ナント云フモノヲ興シタ、其コトヲ決シテ私ハ惡イトハ思ハヌ、惡イトハ思ハヌケレドモ、先進國ガ既ニサウ云フコトヲヤッテ良イコトモ惡イコトモアルンダカラシテ我國ニ於テハドウカ先進國ノ、他國ノ經驗ニ於テ惡イ所ノモノヲ捨テ、唯良イ所ノモノ

ヲ探ッテ行ツタナラバ誠ニ能ク國家ノ爲ニモナリ發達スルト思フ、ソレダケヲ申上ゲテ置キマス、ソレカラ公債發行ノコトデアリマスガ、是ハチヨット私モ覺エテナイガ、今ノ御話ノ通り三億何千萬カ此三月中ニ發行スルコトニナツテ居ル、サウシテ不用額ガ多分出來ルダラウト思ヒマス、是ハ矢張り御話ノ通り自然増收モアリ、サウ云フ關係カラシテ豫算ニ協賛ヲ得タモノヲ全部發行シナケレバナラヌ必要ハナイカモ知レマセヌ
○野村德七君 是ハ政府委員ニ伺ヒマスガ、今日頂戴シマシタ倉知委員ノ要求ニ依リマス此臨時利得稅ノ算出サレマシタ基礎數字デゴザイマスガ、是ハ此基礎數字カラ初年度ニ於キマスル收入ガ約三千萬圓、次年度カラハ四千萬圓ト云フコトガ豫想サレテ居ル譯デアリマスガ、私共聞キマス所デハ大體此基礎數字ト云フモノヲ御出シニナル場合ニハ必ズ何ト申シマスカ、責任率ト云フモノガアツタリ、又主稅局デ決定サレル場合ニ安全率トカ云フヤウナモノガアツテ、實際ハ相當ノ増額ガアルモノデアアル、其例ハ戰時利得稅ナドヲ見マシテモ著シイ例ガアルノデスガ、是ハ恐ラクメッタニ減ラナイモノデアアル、少クモメッタニ減ラナイモノデア

ル、サウシテナンボカ増額ガアルモノデアルト云フコトヲ申シテモ差支ナイト思ヒマスガ、是ハ個人ニ對スル稅率ノ變更ノ問題ナドモアリマスノデ、ドウ御考ニナリマスカ、之ヲ伺ッテ置キタイ
○政府委員(石渡莊太郎君) 臨時利得稅算出法ヲ提出イタシマシタノデゴザイマスガ、只今野村サンカラ御尋ノゴザイマシタ何カ稅務署ノ責任額、主稅局ノ安全額ト云フヤウナモノガ何方カ此外ニ匿サレテ居ルノデアアルマイカ、露骨ニ申シマスレバサウ云フ御尋カト思フノデゴザイマスガ、サウ云フモノハ一切ゴザイマセヌ、此數字ヲ算出イタシマシタ基礎ハ昨日モ申上ゲマシタ通り、又此備考ニモ書イテ置キマシタ通り、昭和九年度七月以前一箇年間ノ第一種所得稅ヲ決定イタシマシタ法人ニ付テ本稅ヲ適用スルモノトシテ調査イタシマシタ實數デゴザイマス、ソレハ各稅務署ニ於キマシテ一ツツ法人ニ當リマシテ、其間ニ稅務署ガ決定イタシマシタ其法人ニ付キマシテ一々當リマシテ、此稅法ノ趣旨ニ依リマシテ斯ウ云フ風ノ稅法デ行ツタラバ、幾ラ金額ガ見込メルデアラウカト云フコトヲ以チマシテ調査イタシマシタ其儘ノ數字デゴザイマス、其儘ノ數字ニ其處ガ一ツ達觀ガ加ヘテアルノデゴ

ザイマスルガ、其儘ノ數字ニ三割増加ヲ見込

ンダ、此三割増加ト云フコトノ其増シ歩合ヲ見込ミマシタコトハ是ハ一ツノ遠觀デゴザ

イマス、是ハ本年ノ豫算ニ於キマシテモ、法人ノ基礎ヲ昭和八年度決定額ニ對シマシテ三

割増加ヲ見込シタト云フコト同ジ筆法ヲ以テマシテ三割増ト見込シタノデゴザイマス、

ソレナラバ三割増ト云フコトハ一體何處カラ出テ來テ居ルノデアアルカト斯ウ云フ問題

ガ一ツゴザイマス、是ハ昭和八年ニ於テ稅務署デ決定イタサレマシタ其八年當時ニ決

定サレル法人ノ經濟界ノ情況ト、ソレヲ反映イタシマシタ定期率ト、此豫算編成當時

最近ノ定期率トヲ比較イタシマシテ大體ニ於テ三割増位ガ適當デアラウト斯ウ云フ見

當ヲ付ケマシタ所ヨリ致シマシテ、三割増ト云フコトヲ致シマシタノデゴザイマシテ、

是ガ一般豫算ト同ジ増加ノ趨勢ヲ此處ヘ持ツテ來マシタ次第デゴザイマス

○野村徳七君 御説明能ク分リマシタ、私モ色ミナ調査書類ヲ参照シテ見タノデゴザ

イマスガ、色ミナ經濟界ナリ銀行ナリノ色色ナ調査ヨリモ政府ノ御調査ガ矢張り一番

確實デアルト云フ結論ヲ私ハ得タノデアリマスガ、更ニモウ一ツ伺ヒタイノデアリマ

對シテハ〇・七五ト云フ修正案ニ對シマシ

テ御質問ガアリマシタガ、政府ハ是ハ同率トセラレマシタ此精神ノ中ニ、衆議院デモ

チヨットサウ云フコトヲ言フ人ガアリマシタガ、此國民所得論ナドニ述ベテ居ル所謂

日本ノ個人所得ニハ三割程度ノ増加ハ見込ミ得ラレルモノデアルト云フ觀念、詰リ法

人ハ「バランス・シート」ニ依リマシテ徹底的ナ調査ガ出來マスガ、個人ノハドウシテ

モサウ云フコトニナラナイ、認定ニ依ルモノガ少カラズアル、斯ウ云フコトヨリシテ

所謂斯ウ云フ増加稅ト云フモノノ單一稅ヲ課スル場合ニハ、累進率ノヤウナモノハ勿

論煩瑣デアアルシ又等差ヲ受クベキモノデナイト云フコトガ、サウ云フ精神ガ加味サレ

テ居ルノデアリマセウカ、伺ヒタイ

○政府委員(石渡莊太郎君) 野村サンノ御尋ハ個人ノ營業所得算出ニ當ツテハ營業利

益ガハッキリ出テ來ナイ、從テ稅務署ニ於テ認定サレル分ガ相當多クアルノデハナイカ、

從テ實際額ヨリモ寧ロ低イノデアアルマイカトサウ云フコトヲ考ヘテ稅率ニ致シタト斯

ウ云フノデハナイカト云フ御尋カト思フノデアリマスルガ、此個人ノ所得ノ營業所得

イマス、併ナガラ是ハ個人ノ所得ト云フモ

ノガ必シモ稅務署ノ認定ガ低過ギルト云フコトヲ言ヒ切ル譯ニハ參リ兼ネル事情モア

ルカト思フノデアリマス、從ヒマシテ其點ハ格別此稅率ヲ決メマス際ニ於キマシテハ

考ヘニ入レタ譯デハゴザイマセヌ

○野村徳七君 能ク分リマシタ、先程増資ノ場合ノコトガ述べラレマシタガ、私ハ此

法案ニ對シテ色ミナ不公平ト感ジラレルヤウナ點ガ衆議院デモ澤山申サレテ居リマス

ルガ、矢張り其中ノ一ツニ此昭和五六年ノヤウナ非常ナ收縮時代、「デフレーション」

ノ時代ニ已ムヲ得ズ減資シテ、サウシテ其時ノ利益ヲ標準利益迄持ツテ行カナケレバ

株式會社經營ノ體面ガ保テナイト云フヤウナ實情ニ即シテ可ナリ積立ヲ崩シ、資本ヲ

「カット」シテ收縮狀態ニ置イタ會社ガ少カラズアルト思フ、寧ロ七年以降ニハ反對ニ

此景氣ノ轉換時代デアリマス爲ニ、サウ云フコトノ爲ニ減資シタヤウナ會社ハアリマ

セヌ、アリマシテモ恐ラク合併ノ爲ニ優良會社ニ對比シテ資本ヲ收縮シテ持ツテ來タ

ト云フヤウナモノガアリマス、サウ云フ昭和四年ノ下半年カラ起ツタ非常ナ稀ナ收縮、

矢張り其後其仕事ノ素質ガ宜カッタ、又經營者ノ努力ニ依ツテ事業ガ好轉シテ來タト云フ

ヤウナモノニ對シマシテハ本稅ハ最モ手嚴シク感ジラレル、是ハ恐ラク此稅ガ外ノ優良會社ガ昭和五六年ニ相當ナ多額ナ利益ヲ

舉ゲテ居ツテ、今日ノ利益ト比較シテ、其全體ニ舉ゲル利益ガ増加利益ニ比シマシテ、

増加利益ノ比例ガ全體ニ舉ゲテ居タ利益カラ見レバ僅デアルト云フヤウナモノノ量

的ノ考ヘ方カラ見マスレバ非常ナ大キナ不公平ガ出來テ來ル、斯ウ云フコトガ言ヒ得

ラレル、モウ一ツハ借入金デアリマスルガ、此借入金ヲ當時持ツテ居タモノト、借入金ヲ

持ツテ居ラナカッタモノトノ、其借入金ヲ株券ノ拂込ニ依ツテ補充シテ行ツタモノ、ソ

レカラ今日マデ利益デ借入金ヲ遞減シテ行ツタモノト云フヤウナモノノ間ニモ、可ナリ十

年以後ニ課稅ヲ受ケマスモノニ不公平ガ出來ルト思ヒマス、ソレカラ今後本法ノ運用

如何ニ依リマス、隨分拂込ヲ取ツテ、拂込金ニ依ツテ借入金、借入金ト申シマシテモ廣

イ範圍デ社債ナドモ含ムト思ヒマスガ、サウ云フヤウナモノヲ償却シテ行クト云フヤ

ウナコトガ、或ハ續々行ハレヤセヌカト云フコトモ考ヘラレルノデアリマスガ、是等

ニ付テドウ御考ニナリマスカ

○政府委員(石渡莊太郎君) 減資ニ付キマ

シテ御尋ガアッタノデゴザイマスガ、ナカク減資ト云フモノヲ實ハ我ミノ立法イタス際ニ於キマシテ大分考ヘタノデアリマスガ、御説ノ通り甚ダムツカシイ問題方起ッテ參ルノデゴザイマス、何處マデ此條文ヲ書イテ行ッたら一體ソレナラバ満足出來得レル程度ニ書ケルカト云フコトハ是非常ニムツカシイト思フノデアリマス、今御話ノアリマシタ通り衆議院ノ修正案ガ昭和七年一月一日カラトアルガ、其前ニ遡ル必要ガアルノデアアルマイカ、斯ウ云フ御尋デアリマスガ、モット昭和四年、五年デモ更ニ考ヘテ行ッたら會社ノ創設位マデ遡ラナケレバいかスト云フヤウナ議論マデ、極端ナ議論マデ出來得ル性質ノモノダト思フノデゴザイマス、是ハ課稅ト致シマシテハ我ミハ課稅ノ實體ト致シマシテ、將來ノ實體トシテ考ヘテ行クヨリ外仕方ガナイ、ソコニ多少ノ不公平ガアッタ所デソレハ已ムヲ得ナイ、斯ウ云フコトノ觀念カラ致シマシテ實ハ減資ニ對スル所ノ條文ヲ何等作製イタサナカッタ次第ナンデゴザイマス、是ハ各國ノ立法例ニ於キマシテモ、又減資ニ付キマシテドウモ納得ノ行クヤウナ條文ヲ致シテ居ルモノハ見當ラナイノデゴザイマス、只今仰セ

ニ相成リマシタ事例ニ於キマシテモ、損ノ

アッタ場合ヲ減資ヲシテ埋メタ分ニ付テハ、將來ソレハ減資ヲシナカッタモノトシテ見テヤル、斯ウ云フコトデアアルナラバ、一方ニ於テ積立金ヲ崩シテ其損ヲ埋メタモノハ一向見ラレナイ、斯ウ假定イタシマスレバ、其間ニ於テモ餘程不公平ナ場合ガ出テ來ルカト思フノデゴザイマス、從ヒマシテ此減資ノ場合ニ於キマスル實際上ノ取扱若クハ此衆議院ノ修正案ノヤウナ取扱トシテ、實際命令ニ讓ラレテ如何ナル規定ヲ織込ムカト云フコトハ、餘程是ハ考慮ヲ要スル問題デアラウカト思フノデゴザイマス、唯昭和五六年當時ニ於キマスル所ノ減資ヲスルヤウナ苦シイ會社ニ付キマシテハ、免ニモ角ニモ是ハ七分ダケノ利益ノアツタモノト見テヤルト云フ所ニ於キマシテ、ソコニ餘裕ヲ存スルト云フ、多少ノ餘裕ハ存スルト云フコトニ付キマシテ、今後ノ減資サレタ状態ニ於テノ負擔ノ問題ト云フモノガ緩和サレテ來ル、斯ウ云フコトヲ考ヘテ居リマスカ次第デゴザイマス、最後ニ社債ノ御話ガゴザイマシタガ、借入金ハ御承知ノ通り今日資本金ニ見テ居リマセヌノデゴザイマス、借入金ハ……借入金ヲ以テ借入金ヲ返シテ行ク、社債ヲ返還シテ行ッテ、社債ヲ資本ノ

方ニ振替ヘルト云フヤウナ現象ガ起リハシ

ナイカ、斯ウ云フ御心配デゴザイマスガ、本稅ハ昨日モ申上ゲマシタ通り比較的輕イ租稅デアリマシテ、而モ極ク臨時ノ短期間ノ租稅デアリマスノデ、本法ニ依リマシテ經濟界ニ於テ、此稅ノ爲ニ不自然ナル作爲ガ行ハレヤウトハ、實ハ我ミ共考ヘテ居ラナイノデゴザイマス、左様御承知願ヒタイト思ヒマス

○野村徳七君 此本稅ノ代リニ個人ノ

營業收益稅、法人ノ超過所得稅ヲ改正シテ、同ジヤウナ目的ヲ達スルモノデハナカラウカト斯ウ思ヒマスガ、其點ニ付テ……

○政府委員(石渡莊太郎君) 本稅ハ增加稅

デゴザイマス、從ヒマシテ此增加シタモノ、利益ノ增加シタモノニ對スル增加割合ニ課稅ヲ致ス、斯ウ云フ趣旨カラ致シマシテ本案ヲ立案イタシタノデアリマシテ、此增加稅ト云フ趣旨ニ對シマシテハ、今日ノ營業收益稅ヲ増率イタシマシテモ、法人ノ超過所得稅ヲ増率イタシマシテモ、其目的ヲ達スル譯ニハ行キマセヌノデゴザイマス

○子爵裏松友光君 此本稅ノ代リニ個人ノ

營業收益、營業純益ノ、個人ノ營業純益ノ大

體平均金額ガ來テ居ルノデゴザイマス、ソレデ先ヅ此平均金額ヲ抑ヘテ、之ヲ普通ノ場合ニ於ケル所ノ純益ト、斯ウ認メテ行ツタラバ、先ヅ大體宜クハアルマイカト云フ所ヨリ致シマシテ、三千圓ト致シマシタ次第デゴザイマス

○子爵眞松友光君 能ク了承イタシマシタ、私ハ是デ……

○森平兵衛君 大藏大臣ニチヨット御伺ヲ申上ゲタイノデアリマスガ、衆議院ノ委員會等ニ於キマシテ、其臨時利得稅ニ對シテ、

之ヲ農村救濟、或ハ又山村漁村時局匡救費ニ之ヲ充當スル、所謂目的稅ニセヨト云フヤウナ希望ナリ、質問ガアリマシタ時分ニ、大藏大臣ハ是ハ歲入缺陷ヲ補填スル爲ノ稅デアルカラ、サウ云フ目的稅ニスルト云フコトハ、斷ジテ同意ガ出來ヌト云ッテ御反對ニナツテ居ルコトヲ承知シテ居ルノデアリマスガ、サウ云フ趣旨カラ考ヘマスト、此臨時利得稅ナルモノハ、要スルニ歲入ノ缺陷ニ充當スル、斯ウ云フコトニ私共解釋シテ居ルノデアリマス、サウ云フ點カラ申シマスレバ、要スルニ三千萬圓デモ、平年度四千萬圓デモ、矢張り赤字公債ヲ漸減シテ行クト云フ御趣旨カラ出タモノデアリマスガ、御伺ヒ申上ゲマス

○國務大臣(高橋是清君) 森君ノ御尋ハ、結局理ヲ詰メテ行ケバ、赤字公債ヲ減ラスト云フ結果ヲ齎ラス、目的稅ニ改メルコトノ出來ナイノハ、若シ之ヲ目的稅トシテ、新ニ農村救濟ニ資スル財源トシマスレバ、豫算ニ於テソレダケノ缺陷ヲ生ズルノデアリマス、一般歲入トシテ扱フノデアリマスカラ、ソレヲ特殊ナモノニ當嵌メルト云フコトハ不同意デアル、斯ウ云フ意味デ同意シナカッタノデアリマス

○森平兵衛君 次ハ公債ノコトデ御伺ヒ申上ゲタイノデアリマス、本會議ニ於キマシテ、私ハ五分利公債ヲ低利、所謂四分利公債ニ御借換ニナレバドウカト云フコトヲ御尋ヲ申上ゲマシタ所ガ、約四十億ニ近イ五分利公債ガアルモノヲ、一時ニ四分利ニ換

ヘルト云フヤウナコトヲスルコトハ、現在ノ國家ノ財政上出來ナイ、斯ウ云フ意味ノ御答辯デアリマシタ、私ハ此委員會ニ於キマシテ、政府ニ内國債ノ種類ノ表ヲ御請求イタシマシタ所ガ、本日此處ニ手元ニ届イテ居ルノヲ見マスト、五分利公債ノ据置期間中ノモノガ六億九千餘萬アルノデアリマス、又据置期間經過ノモノ、括弧シテ据置ノ規定ナキモノモ含ムト云フモノガ、約三十九億二千五百萬圓バカリアル、此据置

期間經過ノモノト云フモノハ、何時返シテモ宜イモノデナイカト思ヒマス、尙ホ据置ノ規定ノナキモノモ含ムト云フモノモ、是モ政府ノ御都合ニ依レバ借換セラレルモノト、斯ウ私ハ推定スルノデアリマスルガ、私ハ斯ノ如キ三十九億ト云フヤウナ公債ヲ一時ニ四分利公債ニ御借換ラシタラドウカト云フヤウナ無謀ナル意見ヲ持ッテ居ル者デハアリマセヌ、此据置期間經過ノモノモ既ニアルノデアリマスルカラ、順次之ヲ矢張り四分利公債ニ御借換ニナルコトガ、國庫ノ歲計ノ上ニ於テモ、又負擔ノ上ニ於テモ必要ナモノデアル、況ヤ種々ノ議論ヲ闘ハシテ居ル臨時利得稅ト云フヤウナモノヲ御掛ケニナツテモ、是ガ一億圓モ二億圓モ增收ノ出來ルモノデモアリマセズ、僅ニ三千餘萬圓、平年度ニ於テ四千萬圓位ノ増稅ヲナサルヨリモ、寧ロ之ヲ三十九億、假ニ四分利ニ換

ヘルト云フコトニナツテモ、三千九百餘萬圓收入ガアルノデアリマス、斯ウ云フ點ニ於テ御尋ラシタノデアリマスガ、矢張り政府ニ於テ、既ニ此据置期間經過ノモノガアリマスカラ、順次御借換ニナツテ居ルト云フコトハ、此間大藏大臣モ明言シテオイデニナリマスガ、矢張り私等トシテ、此三十九億ト云フモノヲ、漸次四分利ニ、期間ノ來タ

モノ、或ハ据置ノモノモ、政府ノ財政ノ都合ニ依レバ順次換ヘテ行クト云フコトノ御方針ト承知シテ宜イノデアリマスガ

○國務大臣(高橋是清君) 是ハ今ノ所デハ御承知ノ通り、ナカク此赤字公債ト云フモノハ是カラ毎下ノ位減ラシテ行クト云フ見通シノ付カナイ位ノ狀態デアル、ソレデ五分利公債ヲ低利ニ借換ヘルト云フコトハ、是ハモウ機會サヘ來レバ是非セナケレバナラスコトデアリマス、私屢、申ス通り、

此据置期間ノ經過シタ、何時デモ政府ガ償還スルコトノ出來ル公債、即チ三十何億ト云フモノ、之ヲ償還スルト云フノニハ、先ヅ國民ノ投資ノ力ガ多分ニ有ツテ、政府ガ假ニ先ヅ三十億ナラ三十億ノ公債ヲ借換ヘルト云フ場合ニ、或ハ六割七割位ハ借換ノ方デ済ムデアラウ、三割位カ四割位ハ或ハ現金償還ヲスルカモ知レヌト云フヤウニ、時ノ様子ニ依ッテソレヲ用意シテ掛ラナケレバナラス、併ナガラソレガ三割ハ現金ノ支拂、三割ヨリ外ニハ要ラナイ、斯ウ推測ラシテモ、用意ハ全部シテ、現金償還ガ出來ルト云フ安心ガ政府ニ於テ無ケレバナラス、ソレ故ニ今日米國デヤツテ居ルヤウニ、一旦出テ居ル高イ利子ノ公債ヲ引上ゲテ、安イ公債ニ引換ヘル、或ハ發行權ノ擔保ノ見返法

ニ依ッテ許サレテ居ル公債ヲ引上ゲテ、金融ノ制度ヲ統一スルト云フヤウナ目的ノ爲ニ、サウ云フモノヲ引上ゲルト云フ政策ヲ採ッテ居ル、其實行ノ有様ハドウカト云フト、必ズ其國內ニ、今日米國ニ於テソレダケノ政府ガ新ニ發行スルモノニ對シテ、差支ナク國民ガ之ニ應ズル力ガアル、又應ジテ來ルト云フ其安心ガアツテ初メテ行ヘルコトデア、故ニ我國ニ於テモ、五分利公債ヲ借換ヘルト云フノニハ、少クトモ茲ニ於テ二十五億ナリ、三十億ノ低利ノ公債ヲ先ヅ發行スル、發行シテ失敗ナシト云フダケノ安心ガ出來ナケレバ、此大膽ナ仕事ハ出來ナイ、若シ政府ガサウ云フコトヲヤツテ、政府ノ期待シテ居ルダケノ新規發行ノ公債ガ消化サレナイ、應募サレナイト云フトキニハ政策ガ行詰ッテシマフ、ソレデ今日デハ未ダ此五分利公債ヲ低利ニ借換ヘルト云フ、サウ云フ時期ハ來テ居ラス、今日ハ、漸クニシテ此必要已ムラ得ザル赤字公債ヲ消化スル力ガドウデア、ルカト云フコトヲ、前途ニ心配スル位ノ有様デアリマスカラ、ソレ故ニ償還期限ノ到來シタモノハ、是ハ四分利ヲ幾ラ發行シテ、サウシテ五分利ヲ現金償還スルト云フ手段ヲ取りマスケレドモ、未ダ償還期日ノ來ナイモノニモ之ヲ及ボスト云フト

ハ爲シ得ナイ、又ソシテ五分利公債ヲ一時ニ借換ヘナクテモ、出來ルダケヤッタ宜カラウト云フ御考モアルヤウデスガ、サウスルト是ハモウ公債所有者ニ非常ニ不安ノ念ヲ持タシテ、ドノ公債ヲ政府ガ償還スルカト云フ心配ガ起ル、サウスルト五分利公債ト云フモノガ、今ノ所デハ先ヅ當分償還ガ出來ナイト云フカラ、利息ノ關係カラ額面以上ニ買フ人モアル、賣買サレテ居ルガ、最早サウ云フコトニナルト云フト、五分利公債ハ額面以上デ買フト云フヤウナ、サウ云フ觀念ガ無クナツテ來ル、徒ラニ五分利公債ノ時價ヲ下ゲルト云フヤウナ結果ニ終ッテ、政府ハ目的ヲ達スルコトガ出來ナイト云フトニナリハシナイカ、ソレヲ心配スルガ故ニ、今日ハ償還期限ノ來タモノニ依ッテハ低利ニ借換ヘル、即チ結果カラ云ウテ借換ヘルノデア、新ニ四分利公債ヲ發行シテ現金ヲ得テ、五分利公債ヲ現金デ償還スル、斯ウ云フ手續ヲ取ルケレドモ、償還期限ノ來ナイモノニ對シテハ、政府ハサウ云フ時期ニ達シテ居ラスト斯ウ考ヘルノデアリマス

○森平兵衛君 御懇篤ナル御説明ヲ承ハリマシテ、政府ノ御趣旨ノアル所ハ能ク了解イタシマシタ、御説ノ通り三十九億ト云ヘバ相當ナル金額デアラカラ、之ヲ一時ニ据置期間中ノモノ迄モ低利ニ借換ヘルト云フトハ、金融界ニ相當ノ衝動ヲ與ヘルモノデア、餘程金融界ノ事情ヲ御考察ナサレタ上デナイト出來ヌコトモ承知イタシテ居リマス、唯國民ノ聲トシマシテ、過日本會議デモ申述ベマシタ通り、庶民階級ノ郵便貯金ナルモノ、預金ト債券トハ違ヒマスガ、郵便貯金ハ三分デ、公債ハ、何ト申シマス一部資本家階級ノ持ッテ居ルモノハ五分デア、時價ノコトヲ申サズシテ、サウ云フコトヲ色々議論スルヤウナ點ガアリマスノデ、矢張り國債トシテ、民間ノ利息ノ高イ或ハ市町村債ノ債券ヨリハ高利率ヲ支拂ッテ居ルト云フトガドウデアアラウカト云フトゴ、御伺シタヤウナ譯デアリマス、ドウカ此据置期間經過ノモノニ對シテハ、政府トシテ金融界ニ衝動ヲ與ヘラレヌ程度ニ、一ツ御借換ヲセラレンコトヲ希望イタシマシテ此質問ヲ終リマス、次ニ矢張り公債ニ關シテノコトデ一點御尋ヲシタイノデアリマスガ、公債ハ大體ト致シマシテハ殆ド所得稅モ資本利子稅モ掛ッテ居ラナイ、内國債ダケガ漸ク是ガ濱口内閣ノ時分デアリマシタカ、所得稅ト云フモノハカケラレヌ爲ニ、所謂資本利子稅ト云フ名目ノ下ニ、

百分ノ二ノ税金ガカカテ居ルノデアリマス、政府ニ於テ今日ノ場合、他ノ税金ト均衡ノ爲ニ矢張り此社債或ハ府縣債ノヤウナモノニ付テハ、所得稅ガ四分カカテ居ルノデアリマス、獨リ國債ニノミ所得稅ハカカテ居ラヌノデアリマス、斯ウ云フ公債ノ利札ニ付テ所得稅ヲオカケニナル御意思ガアリマセヌカ、ソレトモウ一點ハ資本利子稅ヲ所得稅トシテカケルコトハ出來ヌ、併シ資本利子稅ニ付テハ少シクドウカスルト云フトハ、立前トシテ考ヘテ見テモ宜イト云フヤウナコトニ付テノ御腹案ガアレバ、承リタイト思ヒマス

○國務大臣(高橋是清君) 今御尋ノ點ニ付テハ、私ハマダ何等考ヘテ居リマセヌ、ソレカラ最前ノ御話ノ公債ト云フモノガ、郵便貯金ノ利息ヲ減ラシテヤツテ來タガ、此公債ト云フモノハ資本家ガ持ッテ居ルト云フヤウナ、是ハサウニ違ヒアリマスマイケレドモ、今日銀行ガ多ク公債ヲ持ツト云フトハ、強チ資本家ガ持ッテ居ルトハ一概ニハ言ヘマセヌ、銀行ハ預金部ノ公債ヲ持ッテ居リマス、即チ銀行ニ對スル預金者ガ持ッテ居ルト云フヤウナコトニナルノデスガ、唯公債ト云フト、何ダカ富豪カ金持ガ持ッテ居ルヤウニ皆ガ言フガ、是ハ國民ノ思想ノ上ニ

モ色ニ關係ヲ持ツノデアリマスカラシテ、餘程一般ニ誤解ヲ與ヘナイヤウニ、今ノ細民ト言ヒマスカ、此郵便貯金ニ預金ヲスル人ハ、矢張り公債ノ今日ノ所有主ニナツテ居ル、預金部ニ於テ公債ヲ持ツト云フノハ、即チ零細ナ預金ガ溜ッテ公債ニナル、ソレ故ニ貧富ヲ問ハズ、此餘力ト云フモノガ或ハ公債ニナツタリ、債券ニナツタリ、株券ニナツタリシテ居ルノデアリマスカラ、貧富ノ區別ヲ公債投資ノ上ニ付テ餘リ強ク私ハ言ヒタクナイト思ヒマス、細民ト雖モ私ハ矢張り持ッテ居ルト思ッテ居リマス

○森平兵衛君 只今大藏大臣ノ御説明ニ於テ、預金額ニモ公債ガアツテ、ソレガ郵便貯金ノ何ニナツテ居ルト云フ御答辯デアリマスルガ、其點ハ能ク了承イタシテ居リマス、其以上ハ議論ニナリマスノデ、時間デアリマスノデ、今日ハ此程度ニ質問ヲ止メマス

○委員長(子爵渡邊千冬君) 今日ハ是デ散會イタシマス、此次ノ會議ハ彙報デ御知ラセラ致シマス

午後零時四分散會
出席者左ノ如シ

- 委員長 子爵渡邊 千冬君
- 副委員長 男爵深尾隆太郎君

委員

- 侯爵中御門經恭君
- 侯爵佐佐木行忠君
- 伯爵酒井 忠正君
- 子爵西尾 忠方君
- 子爵裏松 友光君
- 男爵赤松 範一君
- 桑山 鐵男君
- 男爵松平外與磨君
- 倉知 鐵吉君
- 菅原 通敬君
- 西野 元君
- 馬場 鏊一君
- 森 平兵衛君
- 松本 眞平君
- 野村 徳七君
- 澁澤 金藏君

國務大臣

- 大藏大臣 高橋 是清君

政府委員

- 內務參與官 伯爵橋本 實斐君
- 大藏參與官 豐田 牧君
- 大藏省主稅局長 石渡莊太郎君
- 大藏省理財局長 青木 一男君
- 大藏書記官 大矢半次郎君
- 陸軍政務次官 子爵土岐 章君